



[海の状況 (6/21~7/20)]

神子表面水温……期間の中頃にかけてやや低め（平年より0.5~1.0℃程度低め）となる日がみられたが、期間全体をとおしてやや高め（平年より0.5~1.0℃程度高め）から、はなはだ高め（平年より2.0℃程度高め）の範囲で推移した（図1）。

米ノ表面水温……期間の中頃まではやや低めからはなはだ低め（平年より2.0℃程度低め）の範囲で推移したが、期間の終わりは一転してはなはだ高めの日がみられた（図2）。

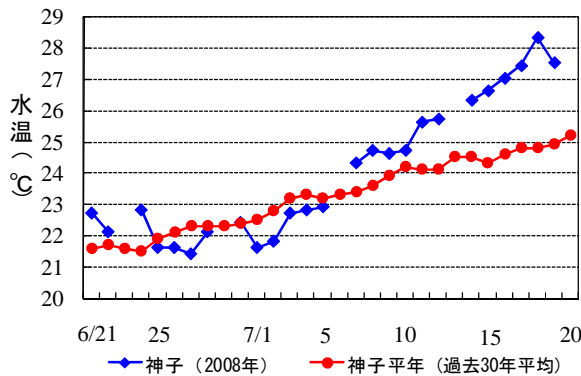


図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移。

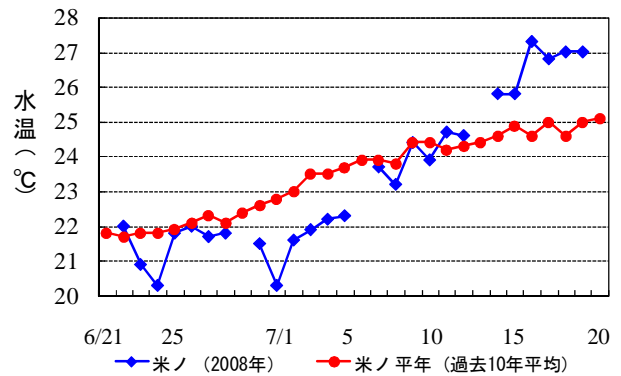


図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移。

☆ 100m深水温……若狭湾西部に暖水域が広がっていた（図3）。☆

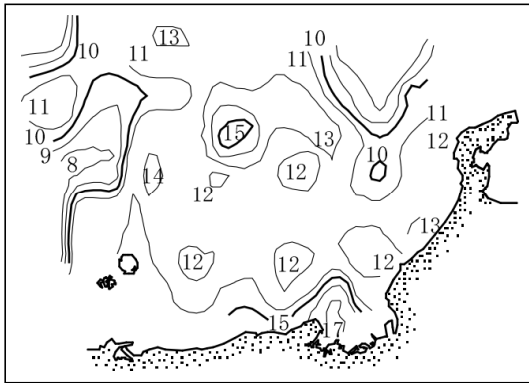


図 3. 2008年7月上旬の100m深水温。

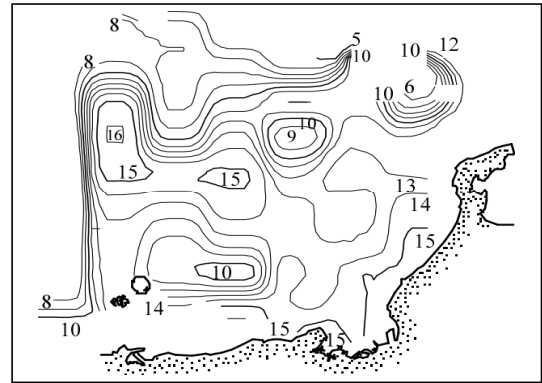


図 4. 2007年7月上旬の100m深水温。

資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

平成20年度第2回日本海海況予報

日本海区水産研究所が平成20年7月~9月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介し（本予報は、水産庁ホームページ[<http://www.jfamaff.go.jp/>]の報道発表資料の中に掲載されています。）。

- 3月~5月の山陰・若狭沖の冷水域は、平年並みの規模でやや接岸し、6月には小さな規模で接岸状況は平年並みであった。今後の張り出しは、“やや弱め”で経過するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は3月~6月にかけて一部の海域を除いて“平年並み”から“やや高め”で推移していた。今後は“平年並み”で経過するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部(福井県~島根県)および北部とも“やや高め”（1月~3月平均）から“平年並み”（4月~6月平均）で推移していた。今後は日本海西部では“平年並み”、北部では“やや高め”で経過するでしょう。 (瀬戸久武)

〔漁の様相〕

2008年6月の県内の総水揚量は1,751tで、2007年同月を223t上回った。アジ類（2008年；364t、2007年；513t 以下同じ）、サワラ（39t、157t）、ケンサキイカ（2t、13t）、タコ類（25t、43t）等は下回ったものの、ブリ類（307t、155t）、サバ類（91t、55t）、トビウオ（329t、84t）等は上回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類、サワラ、スルメイカ、ケンサキイカ等は下回ったものの、サバ類、ブリ類（ツバス銘柄主体）、トビウオ、マダイ等が上回り、全体では前年を183t上回った。

底びき網 ……アカガレイ等が上回り、全体では8t上回った。

釣り・他 ……ブリ類（ハマチ銘柄主体）、タコ類等は下回ったものの、スルメイカ等が上回り、全体では32t上回った。

〔県内主要漁業の6月の漁獲量〕

(単位：kg)

定置網			
魚種	2008年	2007年	98-07平均
カタクチイワシ	7,258	7,448	23,102
アジ類	363,390	511,693	452,622
サバ類	91,331	54,837	33,021
マグロ類	5,369	5,503	5,027
カツオ類	120	459	4,525
ブリ類	304,988	148,178	110,600
サワラ	39,048	156,573	37,354
トビウオ	328,448	84,031	148,040
マダイ	14,124	4,517	11,889
クロダイ	634	1,070	1,152
スズキ	7,309	6,648	4,013
ヒラメ	1,517	1,115	1,322
カマス	5,751	6,614	8,377
フグ類	13,574	6,859	17,514
タチウオ	165	681	385
スルメイカ	4,489	16,244	15,055
アオリイカ	3,336	1,195	1,287
ケンサキイカ	1,743	10,892	22,414
その他	26,055	10,939	55,327
合計	1,218,649	1,035,497	953,027

底びき網のつぎ			
魚種	2008年	2007年	98-07平均
その他	2,830	2,514	4,833
合計	48,848	40,560	52,577

釣り、延縄、さし網、その他			
魚種	2008年	2007年	98-07平均
アジ類	321	799	683
サバ類	128	42	533
ブリ類	2,216	6,653	4,031
トビウオ	405	397	297
マダイ	3,025	4,044	5,839
キダイ	4,591	5,092	3,221
アマダイ	4,350	4,518	6,252
スズキ	4,864	4,996	5,968
ヒラメ	4,509	2,302	3,029
その他カレイ	3,811	3,985	4,845
カマス	465	25	120
タチウオ	113	2,562	767
アナゴ	3,035	4,396	6,297
メバル類	5,420	5,176	4,850
キス類	258	1,029	712
スルメイカ	318,863	239,958	246,874
アオリイカ	2,654	868	732
ケンサキイカ	109	2,375	7,125
ソデイカ	0	1,020	114
タコ類	23,155	41,990	43,836
その他エビ	998	2,181	2,114
その他	100,700	117,834	103,666
合計	483,990	452,242	451,906

底びき網			
魚種	2008年	2007年	98-07平均
マダイ	1,884	804	1,522
アカガレイ	4,104	1,136	2,517
その他カレイ	676	790	2,763
アナゴ	27	45	86
ハタハタ	1,345	60	1,288
ニギス	1,250	980	1,207
タコ類	1,360	576	1,059
アカエビ	33,189	32,135	33,626
その他エビ	2,182	1,520	3,676

総計	2008年	2007年	98-07平均*
	1,751,487	1,528,298	1,551,455

*まき網による漁獲量を含む。

〔近府県の漁様相〕

(6月下旬から7月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴魚連への1日あたりの水揚量。)

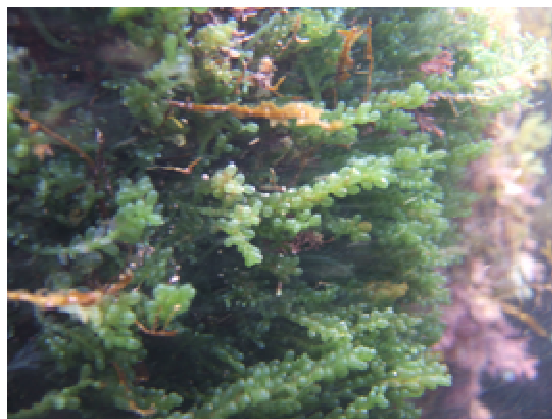
- 石川県…… 定置網 …… ブリ18kg、フクラギ25kg、サワラ13kg、トビウオ109kg
- 京都府 …… 定置網 …… マアジ(小・ジシタ)22.2t、トビウオ6.2t、ハマチ0.6t、サワラ(サゴシ)0.2t
- 兵庫県 …… 定置網 …… アジ1,113kg、トビウオ306kg、サバ135kg、サワラ9kg
- 鳥取県 …… まき網 …… マアジ13.0t、ブリ類0.4t

(瀬戸 久武)

食用海藻:「フサイワズタ」

前回に引き続き、食用海藻についてご紹介します。

「海ぶどう」という名前を一度は耳にしたことがある方もおられると思います。「海ぶどう」は沖縄県で養殖されている「クビレズタ」と呼ばれる海藻の商品名で、近年では日本中の小売店、インターネット販売などによって簡単に手に入るようになりました。プチプチとした食感が一番の特徴で、健康食品としても人気があるようです。



海水中に繁茂するフサイワズタ

今回紹介するフサイワズタはクビレズタとよく似た海藻です。福井県沿岸での生態について、これまでに詳しく調べられたことはありませんが、ちょうど今頃の時期に沿岸の岩礁域に繁茂しています。全体がきれいな緑色をしており、名前から連想されるように小枝が密集してブドウの房のように見えます。



フサイワズタ料理の一例

このフサイワズタの食べ方は極めてシンプルです。採取した海藻をよく洗い、ゴミや付着生物を取り除きます。そのまま生で食べてもよいし、ドレッシングや三杯酢につけて食べてもよく、料理の付け合わせとしてお皿に載せれば、その彩りは華やかになることでしょう。

(仲野大地)

(カラー写真は水産試験場HPにて閲覧できます <http://www.fklab.fukui.fukui.jp/ss/>)

平成20年スルメイカ漁場一斉調査結果

日本海側の各試験研究機関によるスルメイカ漁場一斉調査が、6月下旬から7月上旬にかけて行われましたので、その結果についてお知らせします。

(1) 福井県の調査結果

福井県沖合の4定点において、釣機6台を用いて毎晩約8時間ずつ釣獲試験を行いました。

- ・ 漁場水温…表面水温は、19.1～21.5℃（2007年；21.5～23.4℃）、50m深水温は10.3～16.5℃（同；15.5～18.1℃）で、調査海域では昨年よりも低い水温でした。
- ・ 釣獲状況…総釣獲尾数3,122尾（2007年；2,118尾）、CPUE（釣機1台1時間あたりの釣獲尾数）は平均16.3尾（同；10.8尾）で、昨年よりも釣獲量が増加しました。
- ・ 体長組成…胴長（外套背長）は、19～21cmの個体が主体でした。昨年が17～18cmの個体が主体だったので本年は若干大型でした。

月日	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日
釣獲開始位置	N 37°00.3' E 136°19.7'	N 37°37.3' E 135°41.3'	N 37°52.5' E 135°01.8'	N 36°39.1' E 134°59.6'
釣獲尾数	1288	947	501	386
CPUE*	26.8	19.7	10.8	8.0
平均胴長(cm)	19.0	19.9	20.4	19.6
表面水温 (°C)	20.7	20.1	20.1	20.8
50m深水温 (°C)	14.4	12.3	16.1	15.7

※ CPUE；釣機1台1時間あたりの釣獲尾数（7月3日は釣機を休止した時間を鑑みて算出しています。）

(2) 日本海全体の状況

日本海区水産研究所の取りまとめによると、全ての調査定点におけるCPUEの平均は21.06尾で、昨年(11.18尾)の188%、近年平均(14.43尾)の146%の水準でした。分布状況は、秋田県～石川県沖では胴長が19～21cm台が主体でした。分布密度は同海域で高めでしたが、福井県～長崎県（西部日本海）にかけては、高くありませんでした。沖合域では大和堆付近で大型個体が少ないものの、分布密度が高い調査定点が複数みられました。

5月の西部日本海の漁獲量は昨年並みでしたが、6月は昨年および近年平均を下回りました。

今後の水揚げ量の見通しは、西部日本海は11月頃が中心で、沖合域では8月下旬以降の大和堆周辺海域においてそれぞれ昨年および近年平均を上回るでしょう。

本州北部日本海においては、主に新潟県以北で漁場が形成されそうです。本調査では、各機関により標識放流が行われました。標識の付いたスルメイカが採捕されましたら、水産試験場までお手数ですがご連絡ください。

(瀬戸久武)

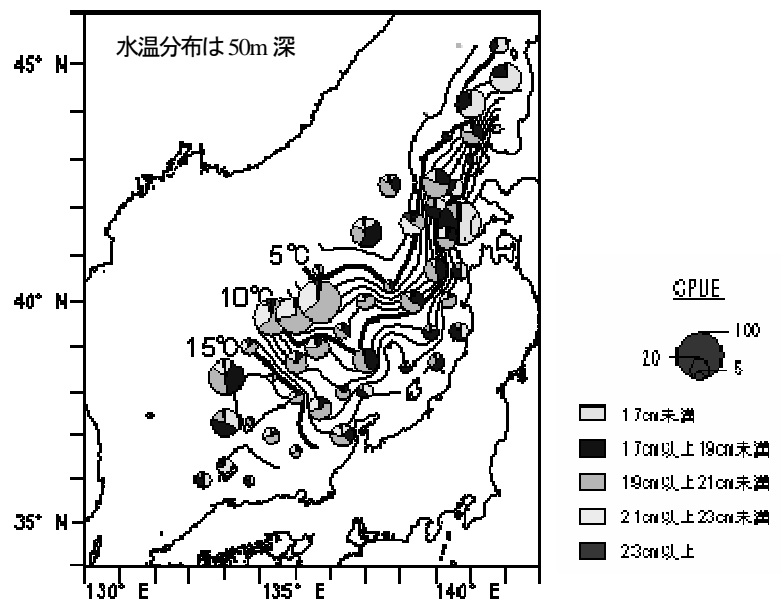


図.1 日本海におけるスルメイカの分布状況